

一人ひとりが描く復興とは

提案者：テイドラ、田浦充実

はじめに

まずは、この度の震災によりお亡くなりになられた方々に対しましてお悔やみを申し上げますとともに、被災者の皆様に対しまして心よりお見舞いを申し上げます。能登半島地震被害を受けて、中学生が家族と離れて先生の引率で一時避難をすることになりました。この生徒さん達を励まし、力づけること、自信をもってもらうことを目的とし今回の教案作成に取り組みました。

13年前の東日本大震災の被災地では、中学生が見違えるほど大きく成長し、大人たちがその姿に励まされました。岩手県宮古市田老地区では、2011年3月11日の大津波により地区全体で181人が亡くなり、町の中心部が壊滅的な状況となりました。私たちも実際に現地を訪問し当時のお話を聞き、復興の現状を学びました。

今回の教案では、自分達の通った中学校さえも浸水した、この地区の中学校宮古市立田老第一中学校の全生徒が書いた津波作文集『いのち』を使います。

授業目標

- 1) 震災を振り返り、自他のいのちの大切さについて生徒一人一人のおもいを持つことができる。
- 2) 震災体験を通し、今のおもいや気持ちを話し合ったり書いたりすることができる。
- 3) 能登半島や輪島市の復興へのねがいをもち、仲間や地域と協働的に取り組もうとする意欲や態度を持つことができる。

授業の流れ

- ① 作文集『いのち』から
- ② 言葉の裏側を探る
- ③ 自分たちが今できること
- ④ 未来に伝えたいこと
- ⑤ 最後に



授業内容

私が育ってきた町は今はがれきだらけです。
でも絶対にがれきはなくなると信じています。
だけがれきも元は家など思い出が詰まった物です。
田老にはたくさんの思い出が積み重なっていると
私は考えます。がれきの中から私の写真が見つかりました。
家がなくなるなんて思ってもいないような笑顔でした。
最初はそれを見て、思い出が残ってよかったとしか
思っていませんでした。でも今は、こんな笑顔で過ごせば
苦しい事だって乗り越えられると思います。
だから笑顔で過ごそうと思います。

<https://rcrdm.iwate-u.ac.jp/wp-content/uploads/2013/07/e5Sec766db49621fb66b845cb257.pdf>

みのりさんが感じたこと・考えたことは
ここに書かれていることだけでしょうか？
他にどんなことを感じたと思いますか？

とてもつらかったり、しんどかったり、
勉強に集中できないとか、
何かイライラするとか
その素直な気持ちは吐き出してみよう。

それは声に出すでもいいし、
写真や紙やスマホに残すでもいい。
出すことで、自分自身も楽になるし、
周りの大人たちも子どものなかなか言えない
気持ちが少しは理解できるかもしれない。

一生懸命生活を立て直そうとする
大人の姿を見て、なかなか言い出せない。
そういう人もいるかもしれない。
でも決して我慢せずに、
自分の素直な気持ちを伝えてみよう。

おわりに

生徒がこの授業を通じて、自分の内なる強さや希望を見つけ、過去の困難を乗り越えて成長することを願っています。また、自分自身や他者の感情を受け入れ、共感し合うことで、より強い絆を築くことを期待しています。

この授業が生徒の心に希望を灯し、彼らが前向きな未来に向かって進む助けとなることを望んでいます。教師が学生の声に耳を傾け、彼らの成長と幸福を最優先に考え、適切なサポートを提供してくれることを期待しています。

最後に、この授業が生徒にとって有意義で充実した経験となることを願っています。能登半島や輪島市の中学生の皆さんが地域や社会に貢献し、誰かのために力を貸すことの大切さを理解し、人々に希望や勇気を与える存在になってほしいと願っています。